

エチルベンゼン〔第1種〕-----19.0%≪15~22%≫

■危險物：第二石油類危險等級III、火氣嚴禁

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	MEPを含む 農業の 総使用回数
とうもろこし	アワノメイガ、カメムシ類 ツマジロクサヨトウ	1000	100～300 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	4 回 以内	散布	4 回 以内
りんご	アブラムシ類	1000～2000	200～ 700 ℓ /10a	収穫 30 日前 まで	3 回 以内		3 回以内
	ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ ハマキムシ類、ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
なし (有袋栽培)	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前 まで	6 回 以内		6 回以内
	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ナシグンバイ、ナシホソガ ナシチビガ、カメムシ類 アメリカシロヒトリ	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
なし (無袋栽培)	アブラムシ類	1000～2000		収穫 21 日前 まで			
	シンクイムシ類、ハマキムシ類 ナシグンバイ、ナシホソガ ナシチビガ、カメムシ類 アメリカシロヒトリ	1000					
	クワコナカイガラムシ	1500					
かき	ハマキムシ類、カキノヘタムシガ カキホソガ、フジコナカイガラムシ オオワタコナカイガラムシ カメムシ類、イラガ類 アメリカシロヒトリ ミノカ類若齢幼虫	1000		収穫 30 日前 まで	3 回 以内		3 回以内 (樹幹処理は 2 回以内)
もも	アブラムシ類、モモハモグリガ ナシヒメシンクイ (心折防止)	1000～2000		収穫 3 日前 まで 成虫発生初期 但し、収穫 3 日前まで 収穫 3 日前 まで	6 回 以内		6 回以内 (樹幹処理は 1 回以内)
	ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ ハマキムシ類、クワシロカイガラムシ カメムシ類	1000					
	クビアカツヤカミキリ						
	クワコナカイガラムシ	1500					
みかん	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前 まで	5 回 以内		無人 航空機 による 散布
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類、カメムシ類 カネタタキ、ケシキスイ類 ミカンツボミタマバエ コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ、コナカイガラムシ類	1000					
	ケシキスイ類、コアオハナムグリ アザミウマ類	10	5 ℓ/10a				
かんきつ (みかんを 除く)	アブラムシ類	1000～2000	200～ 700 ℓ /10a		3 回 以内	散布	3 回以内 (樹幹処理は 1 回以内)
	ハマキムシ類 サンホーゼカイガラムシ アザミウマ類、カメムシ類 カネタタキ、ケシキスイ類 ミカンツボミタマバエ コアオハナムグリ フラーバラゾウムシ ミカンキジラミ コナカイガラムシ類	1000					

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用流量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数	
大粒種 ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ、ブドウトリバ	1000～2000	200～ 700 ℓ /10a	収穫 21 日前 まで	2 回 以内	散布	4 回以内 (収穫終了後 から萌芽まで は 2 回以内、 萌芽後は 2 回以内)	
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000						
	クワコナカイガラムシ	1500						
小粒種 ぶどう	アブラムシ類 フタテンヒメヨコバイ ブドウスカシバ、ブドウトリバ	1000～2000		収穫 90 日前 まで				
	ハマキムシ類 ブドウトラカミキリ キンケクチブトゾウムシ成虫	1000						
	クワコナカイガラムシ	1500						
おうとう	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前 まで				2 回以内 (樹幹処理及 び灌注処理は 合計 1 回以内)
	ハマキムシ類、ナシグンバイ アメリカシロヒトリ	1000						
うめ	アブラムシ類	1000～2000					成虫発生初期 但し、収穫 14 日前まで	
	アメリカシロヒトリ、ハマキムシ類 クビアカツヤカミキリ	1000						
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ	50	0.3～ 3 ℓ/樹	収穫 21 日前 まで	3 回 以内	樹幹 散布	3 回以内	
オリーブ (葉)				収穫 120 日 前まで				
いちよう (種子)	コウモリガ、ヒメボクトウ	100		収穫 60 日前 まで				
くり	モモノゴマダラノメイガ	8	3 ℓ/10a	収穫 14 日前 まで	4 回 以内	空中 散布	4 回以内 (樹幹処理は 1 回以内)	
いちご	アブラムシ類	2000	100～ 300 ℓ /10a	収穫前日 まで	2 回 以内	散布	2 回 以内	
ほうれんそう	アブラムシ類 ホウレンソウケナガコナダニ	1000～2000		収穫 21 日前 まで				
ねぎ	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前 まで				
	アザミウマ類	700～1000						
	ネギコガ	1000						
ごぼう	アブラムシ類、フキノメイガ	1000～ 2000		収穫 21 日前 まで				
たまねぎ	アブラムシ類							
	アザミウマ類	700～1000						
トマト	アブラムシ類 オオニジュウヤホシテントウ	2000		収穫前日 まで	5 回 以内		5 回 以内	
なす	アブラムシ類、テントウムシダマシ類	1000～2000						
きゅうり メロン しろり	アブラムシ類							
	アザミウマ類	1000						
すいか	アブラムシ類	1000～2000		収穫 3 日前 まで	6 回 以内		6 回 以内	
	アザミウマ類	700～1000						
かぼちゃ	アブラムシ類	1000～2000		収穫 14 日前 まで	3 回 以内		3 回 以内	
	アザミウマ類	700～1000						



作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	MEPを 含む農業 の総使用 回数
だいず	マメシンクイガ、ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ マメヒメサヤムシガ、カメムシ類	20	3 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$	収穫 21 日前 まで	4 回 以内	空中 散布	4 回以内
	ダイズサヤタマバエ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤムシガ、カメムシ類 ウコンノメイガ、マメシンクイガ	8	800 $\text{m}\ell$ /10a			無人 航空 機に よる 散布	
	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ、ウコンノメイガ マメハンミョウ	1000	100～ 300 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$ /10a			散布	
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
豆類(種実、ただし、 だいず、あずき、 いんげんまめ、そら まめを除く)、 豆類(未成熟、た だし、えだまめ、さや いんげん、未成熟そ らまめを除く)	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000	1000～2000	1000～1500			
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
未成熟 そらまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ	1000	1000～2000	1000～1500			
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
えだまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ カメムシ類 マメヒメサヤムシガ ウコンノメイガ	1000	1000～2000	1000～1500			
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
いんげんまめ	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ、インゲンテントウ インゲンマメゾウムシ	1000	1000～2000	1000～1500			
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
さやいんげん	シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 マメヒメサヤムシガ、インゲンテントウ	1000	1000～2000	1000～1500			
	アブラムシ類	1000～2000					
	マメシンクイガ	1000～1500					
あずき	アズキノメイガ シロイチモジマダラメイガ ダイズサヤタマバエ、カメムシ類 ナミハダニ、マメヒメサヤムシガ マメホソクチゾウムシ	1000	25 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$ /10a	100～ 300 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$ /10a			
	アブラムシ類	250			100～ 300 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$ /10a		
		1000～2000					
そらまめ	アブラムシ類	1000	1000～1500	収穫 3 日前 まで	3 回 以内	3 回以内	
ばれいしょ	アブラムシ類	250	25 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$ /10a		6 回 以内	6 回以内	
	アブラムシ類、テントウムシダマシ類	1000	100～ 300 $\frac{\text{㍑}}{\text{10a}}$ /10a	収穫 14 日前 まで	3 回 以内	3 回以内	

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数				
かんしょ	イモコガ、アブラムシ類 ヨツモンカメノコハムシ	1000	100～ 300㍖ /10a	収穫 7 日前ま で	5 回 以内	散布	5 回以内				
うど	アブラムシ類、センノカミキリ ヒメシロコブゾウムシ ウドノメイガ、ヨトウムシ			根株養成期 但し収穫 150 日前まで	4 回 以内		4 回以内				
モロヘイヤ	マメコガネ、アザミウマ類 アブラムシ類、カメムシ類			収穫 14 日前 まで	2 回 以内		2 回以内				
わらび	ナガゼンマイハバチ			収穫 90 日前まで							
らっきょう	ネダニ類	1000～2000	—	植付前	1 回	30 分間 種球浸漬	3 回以内 (植付前は 1 回以内、 植付後は 2 回以内)				
	アザミウマ類	1000	100～ 300㍖ /10a	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布					
	アザミウマ類、ネギハモグリバエ	8				1.6㍖ /10a		無人航空 機による 散布			
せり	アブラムシ類	2000	100～ 300㍖ /10a	親株養成期 但し収穫 45 日前まで	2 回 以内	散布	2 回以内				
たらのき	センノカミキリ幼虫 ヒメシロコブゾウムシ	100	150～ 300㍖ /10a	3～5 月 株養成期		樹幹 散布					
茶	コカクモンハマキ、チャノホソガ	700～1000	200～ 400㍖ /10a	摘採 21 日前 まで	1 回	散布	1 回				
	ミノガ類	1000					1 回				
まめ科牧草	ヨコバイ類、アブラムシ類 ウンカ類、ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～2000	100～ 300㍖ /10a	収穫 14 日前 まで	2 回 以内		2 回以内				
	ムギダニ	1000									
いね科牧草	ヨコバイ類、アブラムシ類 ウンカ類、ウリハムシモドキ ゾウムシ類	1000～2000		収穫 30 日前 まで	2 回 以内		2 回以内				
	ムギダニ、アワヨトウ	1000									
飼料用 とうもろこし	アブラムシ類	2000		収穫 14 日前 まで	3 回 以内		3 回以内				
セネガ		1000									
花き類・ 観葉植物	アオムシ、バッタ類 ハマキムシ類、アザミウマ類	1000～2000		—	6 回 以内		6 回以内				
ばら	アブラムシ類	1000									
	フラーバラゾウムシ	1000									
きく	アブラムシ類	1000～2000									
	フラーバラゾウムシ、カメムシ類 ヨトウムシ類	1000									
カーネーション	アザミウマ類、クロウリハムシ										
宿根かすみそう	ハモグリバエ類										
りんどう	ヒラズハナアザミウマ										
アスター	ウリハムシ										
ソリダゴ	カメムシ類										
スターチス	コガネムシ類										
シネラルア	シンクイムシ類										
斑入り アマドコロ	コウモリガ										
ききょう	ヨトウムシ										
樹木類	アメリカシロヒトリ		500～1000					200～ 700㍖ /10a	移植前	1 回	30 分間 根部浸漬
	フラーバラゾウムシ、アブラムシ 類 ゲンバイムシ類		1000								
	オオハリセンチュウ		500	—							

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	MEPを含む 農薬の 総使用回数
つつじ類	ゲンバイムシ類、ハマキムシ類	1000	200～ 700 $\frac{\text{㍈}}{10\text{a}}$	—	6回 以内	散布	6回以内
せんりょう	アザミウマ類、カメムシ類						
こでまり	カイガラムシ類						
しきみ	クスアナアキゾウムシ						
にしきぎ	ケムシ類						
しゃりんばい だいおうしょう	シンクイムシ類						
さかき	ハマキムシ類 サカキブチヒメヨコバイ						
さくら	クビアカツヤカミキリ			成虫発生初期			
さんごじゅ	ワタノメイガ			—			
げっきつ	ミカンキジラミ						
たばこ	ヨトウムシ	25～ 180 $\frac{\text{㍈}}{10\text{a}}$	収穫 20 日前 まで	1 回	1 回		
しちとうい	イネクロカメムシ	60～ 150 $\frac{\text{㍈}}{10\text{a}}$	発生初期	2 回以内	2 回以内		
芝	シバツトガ、スジキリヨトウ	0.3～ 2 $\frac{\text{㍈}}{\text{m}^2}$		6回 以内	6回以内		
	コガネムシ類幼虫	3 $\frac{\text{㍈}}{\text{m}^2}$					
	シバオサザウムシ		幼虫発生期				
桑	クワゾウムシ成虫	500～750	100～ 300 $\frac{\text{㍈}}{10\text{a}}$			成虫発生期	

作物名	適用場所	適用 害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	本剤の 使用回数	使用 方法	MEPを含む農薬 の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	1000	60～150 ㍈ _㍉ /10a	4 回 以内	散布	4 回以内

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- ボルドー液と混用する場合は散布直前に行い、できるだけ早く使用すること。ただし、その他のアルカリ性の強い農薬との混用はさけること。
- ももの初期散布(5～6月)には薬害のでることがあるので注意すること。
- 稲(箱育苗)のイネシンガレセンチュウに使用する場合は下記の事項に注意すること。
 - ◆ 発芽期～緑化期の使用は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
 - ◆ 軟弱徒長苗、ムレ苗などの場合は薬害を生じるおそれがあるのでさけること。
 - ◆ 土壌が極端に湿潤な場合は使用しないこと。
- イネシンガレセンチュウの本田における防除に使用する場合、散布適期は出穂の頃であるので時期を失ないように散布すること。なお効果を高めるためには出穂始めとその一週間後の2回散布が望ましい。
- 水稻種子の吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、乾燥種粒に均一に付着するよう所定薬液を吹き付けて乾燥すること。なお処理後、長期間保存する場合には、薬液処理を行ったことを明記し、間違いのないようにすること。
- 本剤を本田の水稻に対して希釈倍数300倍で散布する場合は、所定量を均一に散布できる乗用型の速度連動式地上液剤少量散布装置を使用すること。
- クワゾウムシに対しては成虫が桑樹に集まる4月下旬から6月頃に散布すること。成虫の活動は長期間にわたるので発生状況に応じて追加散布すること。
- かきのミノガ類に使用する場合、幼虫が大きくなると効果が劣るので若令幼虫期に時期を失ないように散布すること。
- 果樹のカメムシ類に対しては発生に応じて所定使用回数以内で繰り返し散布すること。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意すること。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 - ◆ 散布薬液の飛散によって他の動植物(特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂)に影響を与えないよう散布区域の選定に注意すること。
 - ◆ 水源池、飲料用水、養殖池等に本剤が飛散流入しないように十分注意すること。
- 本剤を空中散布及び無人航空機による散布に使用する場合は更に次の注意を守ること。
 - ◆ 散布は各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
 - ◆ 少量散布(8倍液)の散布には、微量散布装置以外の散布器具は使用しないこと。
 - ◆ 無人航空機による散布にあつては散布機種種に適合した散布装置を使用すること。
 - ◆ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
 - ◆ 特定の農薬(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。

- ◆ 散布終了後は次の事項を守ること。
 - ①使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に適切に処理すること。
 - ②使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者をきめて保管すること。
 - ③機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- なしの早生赤種、りんごの旭及びその近縁種には薬害のでることがあるので使用はさけること。
- 本剤を希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型の地上液剤散布装置を利用すること。
- 宿根かすみそうに使用する場合、開花期には薬害を生じることがあるので、この時期の使用はさけること。
- あぶらな科作物には薬害を生じるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布すること。
- ほうれんそうに使用する場合、幼苗期には薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 牧草地に散布した場合は、散布直後の放牧はさけること。
- まめ科牧草のアルファルファゾウムシに使用の場合は、幼虫発生期～成虫発生初期に散布すること。なお、防除適期等については病害虫防除所職員等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- かんきつのミカンツボミタマバエ防除に使用の場合は、成虫の発生初期に樹冠部及び主幹部を中心とした樹の内部、樹冠下の地表面に散布するのが効果的である。
- 芝のコガネムシ類幼虫に使用の場合は、散布液が土壌中に十分しみ込むようジョロ等で1㎡当り3ℓを散布すること。
- フラワーバラゾウムシ及びミカンキジラミに使用の場合は、植物防疫事務所、病害虫防除所等関係機関の指導のもとに実施すること。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、給桑を予定している桑葉にはかからないようにすること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
 - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないこと。
 - ◆ 受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の果樹園等では使用をさけること。
 - ◆ 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。

【安全使用上の注意】

- ❖ 誤飲などのないよう注意すること。
- ❖ 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の投与が有効であると報告されている。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
- ❖ 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
 - 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
 - 空中散布または無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意すること。
 - 散布後は水管理に注意すること。
 - 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
 - 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 危険物第4類、第2石油類に属するので火気には十分注意すること。
- ❖ 保管：火気をさけ、直射日光のあたらない低温な場所に密栓して保管すること。



作成日 1994年10月20日
改訂日 2022年06月14日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ホクコースミチオン乳剤
整理番号	1017-22
供給者の会社名称	北興化学工業株式会社
住所	〒103-8341 東京都中央区日本橋本町一丁目5番4号
担当部門	企画部 環境安全チーム
電話番号	03-3279-5151
FAX番号	03-3279-5195
緊急連絡電話番号	03-3279-5151
推奨用途	農薬(殺虫剤)
使用上の制限	推奨用途以外の使用はしないこと

2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分3
健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(吸入:蒸気) 区分4 皮膚腐食性/刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2 発がん性 区分2 生殖毒性 区分1B 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分1(肝臓 呼吸器 神経系 腎臓 中枢神経系) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(呼吸器 神経系)
環境有害性	水生環境有害性 短期(急性) 区分1 水生環境有害性 長期(慢性) 区分1 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	H226 引火性液体及び蒸気 H302+H332 飲み込んだ場合や吸入した場合は有害 H315 皮膚刺激 H319 強い眼刺激 H351 発がんのおそれの疑い H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ H370 肝臓、呼吸器、神経系、腎臓、中枢神経系の障害 H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、神経系の障害 H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性
注意書き	
安全対策	使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

	全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)
	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。(P210)
	容器を密閉しておくこと。(P233)
	容器を接地しアースをとること。(P240)
	防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。(P241)
	火花を発生させない工具を使用すること。(P242)
	静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)
	ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
	取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
	取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
	屋外又は換気の良い場所だけで使用すること。(P271)
	環境への放出を避けること。(P273)
	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
応急措置	飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。(P301+P312)
	皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと。(P302+P352)
	皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)
	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)
	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)
	気分が悪いときは医師に連絡すること。(P312)
	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
	特別な処置が必要である。(P321)
	口をすすぐこと。(P330)
	皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)
	眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
	火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
	漏出物を回収すること。(P391)
保管	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
	施錠して保管すること。(P405)
廃棄	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

混合物
MEP乳剤

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
O,O-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (一般名 MEP/フェニトロチオン)	50.0%	C ₉ H ₁₂ NO ₅ P S	(3)-2616	4-(9)-232	122-14-5
有機溶剤、乳化剤等	50.0%	—	—	—	—
キシレン	19.0% ≪15～22%≫	C ₈ H ₁₀	(3)-3,(3)-60	既存	1330-20-7
エチルベンゼン	19.0% ≪15～22%≫	C ₈ H ₁₀	(3)-28,(3)-60	既存	100-41-4

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。

皮膚に付着した場合

気分が悪いときは、医師に連絡する。
多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診察、手当てを受ける。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続ける。

飲み込んだ場合

直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護に必要な注意事項
医師に対する特別な注意事項

ばく露による二次災害の防止。
解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の投与が有効であると報告されている。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

使ってはならない消火剤

粉末消火薬剤、泡消火薬剤、二酸化炭素、砂
火災が周囲に広がるおそれがあるため、直接の棒状注水を避ける。

火災時の特有の危険有害性

火災時に有害ガスが発生するおそれがある。

特有の消火方法

消火作業は風上から行う。
火元への燃焼源を断ち消火剤を使用して消火する。
周辺火災の場合、周囲の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
消火作業の際は、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
漏出した場所の付近に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。

環境に対する注意事項

封じ込め及び浄化の方法及び機材

二次災害の防止策

作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。

少量の場合は、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させて取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。

大量の場合は、土砂等で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機などで空容器に回収する。

回収後の少量の残留物は、土砂又はおがくず等に吸収させる。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

接触回避
衛生対策

『10. 安定性及び反応性』を参照。

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。作業衣を家に持ち帰ってはならない。

保管

安全な保管条件

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。禁煙。

涼しい所／換気の良い場所で保管すること。

容器を密閉して保管すること。

安全な容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
O,O-ジメチル-O-(3-メチル-4-ニトロフェニル)チオホスフェート (一般名 MEP/フェニトロチオン)	未設定	1mg/m ³ (皮)	未設定
キシレン	50ppm	50ppm(217mg/m ³)	TWA 100 ppm, STEL 150 ppm
エチルベンゼン	20ppm	50ppm(217mg/m ³)	TWA 20 ppm, STEL -

設備対策

取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具	防じんマスク
手の保護具	保護手袋
眼の保護具	保護眼鏡(側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)
皮膚及び身体の保護具	保護服、保護長靴

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体(可乳化油状液体)
色	黄褐色
臭い	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	データなし
可燃性	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	30℃
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	4.9(×5)
動粘性率	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	1.10(20℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	通常の貯蔵・取扱いにおいて安定である。
危険有害反応可能性	情報なし
避けるべき条件	直射日光、高温、多湿
混触危険物質	情報なし
危険有害な分解生成物	通常の条件下では生成しない。 加熱や燃焼により分解し、有害ガスが発生するおそれがある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	ラット(雄) LD ₅₀ 1,900 mg/kg ラット(雌) LD ₅₀ 2,250 mg/kg
	経皮	ラット(雄) LD ₅₀ 3,200 mg/kg ラット(雌) LD ₅₀ 3,000 mg/kg
	吸入	混合物の急性毒性推定値が5009.346ppmのため急性毒性(吸入:蒸気)一区分4とした。
皮膚腐食性／皮膚刺激性		皮膚刺激性試験(ウサギ): 中等度の刺激性 混合物は区分2のキシレンを10%以上含有し、混合物としては区分2に該当する。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性		眼刺激性試験(ウサギ): 中等度の刺激性 混合物は区分2のキシレンを10%以上含有し、混合物としては区分2に該当する。
呼吸器感作性又は皮膚感作性		皮膚感作性試験(モルモット): 陰性
生殖細胞変異原性		データなし
発がん性		混合物は区分2のエチルベンゼンを1.0%以上含有し、混合物としては区分2に該当する。
生殖毒性		混合物は区分1Bのキシレン、エチルベンゼンを0.3%以上含有し、混合物としては区分1Bに該当する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)		混合物は区分1(神経系)のフェニトロチオンを10%以上含有し、混合物としては区分1(神経系)に該当する。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

混合物は区分1(肝臓、呼吸器、腎臓、中枢神経系)のキシレンを10%以上含有し、混合物としては区分1(肝臓、呼吸器、腎臓、中枢神経系)に該当する。

混合物は区分1(神経系)のフェニトロチオンを10%以上含有し、混合物としては区分1(神経系)に該当する。

混合物は区分1(呼吸器)のキシレンを10%以上含有し、混合物としては区分1(呼吸器)に該当する。

誤えん有害性

データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

魚類 : コイ	LC ₅₀ (96h)	4.0 mg/L
甲殻類: オオミジンコ	EC ₅₀ (48h)	0.0059 mg/L
藻類 : 緑藻	EcC ₅₀ (0-72h)	2.1 mg/L

残留性・分解性

データなし

生体蓄積性

データなし

土壤中の移動性

データなし

オゾン層への有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	1993
Proper Shipping Class	その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの) 9
Sub Risk	-
Packing Group	III
Marine Pollutant	applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	1993
Proper Shipping Class	その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの) 9
Sub Risk	-
Packing Group	III

国内規制

陸上規制	消防法、毒物及び劇物取締法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	1993
品名	その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)
クラス	9
副次危険	-
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1993
品名	その他の引火性液体(他の危険性を有しないもの)
クラス	9
副次危険	-
等級	3

特別の安全対策

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないよう移送時にイエローカードの保持が必要。

15. 適用法令
- | | |
|-----------------------|--|
| 農薬取締法 | 登録番号 第4991号 |
| 労働安全衛生法 | 名称等を表示すべき危険物及び有害物
フェニトロチオン
キシレン
エチルベンゼン |
| | 名称等を通知すべき危険物及び有害物
フェニトロチオン
キシレン
エチルベンゼン |
| 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) | 第1種指定化学物質
フェニトロチオン
キシレン
エチルベンゼン |
| 消防法 | 危険物
第4類第2石油類(非水溶性液体)(指定数量
1,000L)(危険等級Ⅲ) |
| 船舶安全法 | 引火性液体類 |
| 航空法 | 引火性液体 |
| 水質汚濁防止法 | 指定物質
フェニトロチオン
キシレン |
16. その他の情報
- | | | |
|-----------|-------|--------------|
| 記載内容の問合せ先 | 会社名 | 北興化学工業株式会社 |
| | 担当部門 | 企画部 環境安全チーム |
| | 電話番号 | 03-3279-5151 |
| | FAX番号 | 03-3279-5195 |
- 急性中毒に関する緊急の問合せ先
- 公益財団法人 日本中毒情報センター(事故に伴い急性中毒のおそれがある場合に限る)
- | | | |
|--------|------------|------------------------------|
| 中毒110番 | 一般市民専用電話 | (大 阪) 072-727-2499(情報料無料) |
| | | 365日 24時間対応 |
| | | (つくば) 029-852-9999(情報料無料) |
| | | 365日 9~21時対応 |
| | 医療機関専用有料電話 | (大 阪) 072-726-9923(1件2,000円) |
| | | 365日 24時間対応 |
| | | (つくば) 029-851-9999(1件2,000円) |
| | | 365日 9~21時対応 |
- 医療機関の方が一般市民専用電話を使用した場合も、情報料 1件につき2,000円を徴収します。

注意事項

本データシートは作成年月日での製品情報を記載しておりますが、すべての情報を網羅しているものではありません。新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。記載されている内容は、安全な取扱いを確保するための情報であり、いかなる保証をなすものではありません。特殊な条件下で使用するときは、その使用状況に応じた安全対策が必要となります。